

## 令和4年度第1回 小平市環境審議会 会議要録

### 1 日 時

令和4年8月23日（火） 午後2時～午後4時

### 2 開催方式

505 会議室（対面・オンライン併用）

### 3 出席者

○小平市環境審議会委員 12名

奥真美会長、西村守正副会長、佐久間雄一委員、鈴木庸夫委員、竹内大悟委員、田中崇之委員、中島裕輔委員、西出香委員、秦野凌委員、富士田真由子委員（オンラインでの参加）、堀米明委員、安田真之委員

○事務局 13名

環境政策課長、環境政策課長補佐、環境政策課計画推進担当2名、資源循環課長、資源循環課長補佐、水と緑と公園課長、水と緑と公園課長補佐2名、水と緑と公園課緑化推進担当係長、下水道課長、下水道課長補佐、下水道課計画担当係長

○事業者2名

大日本コンサルタント株式会社

### 4 傍聴者

1名

### 5 議 題

- (1) 小平市第三次環境基本計画進捗状況報告（令和3年度実績）について
- (2) 小平市一般廃棄物処理基本計画（改訂）の数値目標等（令和3年度実績）について
- (3) 小平市第三次みどりの基本計画進捗状況報告（令和3年度実績）について
- (4) （仮称）小平市用水路管理方針の策定について
- (5) 小平市第二次下水道プラン進捗状況報告（令和3年度実績）について
- (6) 小平市域の脱炭素化に向けた調査（中間報告）について
- (7) その他

### 6 配付資料

- ・令和4年度第1回小平市環境審議会次第【事前送付】
- ・資料1-① 環境基本計画実施状況の概要【事前送付】

- ・資料 1-②小平市の環境【事前送付】
- ・資料 2-① 小平市一般廃棄物処理基本計画の数値目標等（令和 3 年度実績）【事前送付】
- ・資料 2-② 目標指標推移（令和 3 年度実績）【事前送付】
- ・資料 3-① みどりの基本計画 R3 実績【事前送付】
- ・資料 3-② 小平市第三次みどりの基本計画進捗状況報告【事前送付】
- ・資料 3-③ （仮称）小平市用水路管理方針の策定について
- ・資料 4-① 第二次下水道プラン R3 実績【事前送付】
- ・資料 4-② 小平市第二次下水道プラン進捗状況報告【事前送付】
- ・資料 5-①小平市域の脱炭素化に向けた調査（中間報告）概要版【事前送付】
- ・資料 5-②小平市域の脱炭素化に向けた調査（中間報告）【事前送付】
- ・補足資料 東京都環境基本計画答申案【概要】
- ・補足資料 西武バスからのプレスリリース資料

## 7 内 容

### (1) 小平市第三次環境基本計画進捗状況報告（令和 3 年度実績）について

（事務局）

資料 1-①、1-②に沿って説明。

（西村副会長）

資料 1 の 1 第三次基本計画の二酸化炭素排出量削減の成果指標が 20.5%となっているが、順調に推移しているとみてよいか

（事務局）

第三次環境基本計画では 2030 年度までに 2013 年度比 30%の削減を定めており、途中経過としては、目標に向かって順調に推移している。しかしながら今後、削減目標の見直しを図っていく予定であり、目標数値にあった取り組みをさらに進めていく必要がある。

（西村副会長）

マイルストーンのように〇〇年度はどの程度削減するというような途中経過の削減目標はないのか。

（事務局）

2050 年にゼロに向けて、2030 年まではどの程度削減するのかについて、国や東京都も定めているので、途中の目安は視野に入れる必要はあるが、国や東京都に倣っていく。

（奥会長）

日本の場合は、2050 年脱炭素に向け、途中経過として 2030 年に 46%削減を目指す、さらに 50%の高みに向けて進めるといったシナリオを描いている。EUでは 5 年ごとにカーボンバジェットを決めて削減を図っていく仕組みがあるが、日本はそこまで至っていない。昨年度と比較した増減の要因について、もう少し説明があれば分かり易いと思う。

(事務局)

資料 1-2 の 5 ページには、部門別の二酸化炭素排出量の推移を掲載しており、二酸化炭素排出量が減少傾向にあることは読み取ってもらえると思う。ゼロカーボンに向けて家庭部門・業務部門の削減をより進めていく必要があると認識している。

(西出委員)

市役所のペーパーレス化を進めれば、用紙購入量が圧倒的に減るのではないか。

(事務局)

市役所としてもペーパーレス化の取組を強化しており、市役所では前年度比で 36 万枚の削減が図られた。小中学校でもギガスクール化が進んでおり、配布資料の削減が図られていく予定である。庁舎内の会議等においては PC を持ち込み、率先してペーパーレス化を進めているが、市役所だけでは小平市全体の取組は進まないの、他の事業者にも呼びかけて推進していきたい。

(堀米委員)

会議等でのペーパーレス化を進めるには、ぜひ Wi-Fi 環境を整えていただきたい。

(事務局)

Wi-Fi の設置には、経費の課題もあるが、徐々に必要なところから導入していく計画を立てている。施設への導入については少し時間がかかると思う。

(中島委員)

資料 1-①について、市全体の二酸化炭素排出量の現状値が 2019 年度で 495 千 t-CO<sub>2</sub> となっているが、ちょうどコロナの前の年が現状値となっているので、家庭部門の占める割合が高い小平市においては、今後家庭部門による CO<sub>2</sub> 排出量の増加にともない、場合によっては、今後 2、3 年は減少しにくい傾向になってくると思われる。

エコダイラ・オフィス計画について、施設における CO<sub>2</sub> 削減量についてはコロナの影響を受けている状況が施設によって異なると推察される。自分が調べている小中学校等は、主に空調に使われているガス使用量が年間で 3 割から 4 割増えてしまっている。電力の消費量は変わらなくても空調分で増えてしまったことにより、LED 化が進んでいても相殺されてしまう状況にある。他の地域センター等の施設については、稼働率の減少により一時的に下がっているだけで、今後稼働率が戻ると CO<sub>2</sub> 排出量も戻ってくると思われる。経年で施設ごとに様子を見ていただき、無駄なエネルギー消費がないかチェックしていくことが大事である。特に窓を全開にして冷暖房を行うと無駄にエネルギーを消費してしまうので、空調エネルギーがだいぶ増えている建物については、CO<sub>2</sub> センサー等を活用しながら必要最小限の換気ができているか、過剰な換気を行っていないかチェックしていく必要がある。

質問だが 2020 年と 2021 年の比較において、電気もガスも使用量が上がっているのに、CO<sub>2</sub> 排出量が 3.4% 下がっているのはどういうことか。

(事務局)

電気事業者の排出係数が下がったことにより、CO<sub>2</sub> 排出量が減少となっている。排出係数が下がった要因としては、石炭火力の減少や太陽光発電設備等の自然エネルギーが増加したことが要因と捉えている。

また、委員ご指摘のとおり、前年度と比較すると施設ごとにCO2排出量の数値に凸凹があり、小学校については前年度より増加している。換気をしながらの空調が要因となっていると思われるので、適正な換気方法について教育委員会とも協議をしていきたいと考えている。

(中島委員)

エネルギー使用量は増加している認識は持っておいた方が良いと思う。

(堀米委員)

省・創・蓄エネルギー機器等の助成について、断熱窓の件数が5件となっているが、どう評価しているのか

(事務局)

断熱窓を助成の対象に加えた初年度ということもあり、件数は少なかったが、断熱窓の講座等の参加者が多かったこと、また今年度も多くのお問い合わせをいただいていることから注目度は高いと考える。今後も家庭部門の二酸化炭素排出量を減らすことを考えると必要な取組であると考える。

(奥会長)

基本方針5「学びと協働の推進」の成果指標について、参加人数の内訳には、例えば環境シンポジウムの参加者数や環境学習講座等の参加人数にはオンラインで参加した方も含まれているのか。

(事務局)

参加人数にオンラインで参加された方も含まれている。

## (2) 小平市一般廃棄物処理基本計画（改訂）の数値目標等（令和3年度実績）について

(事務局)

議題(2)について、資料2-①、2-②に沿って説明。

(西村副会長)

排出原単位というのはどういうものか。

(事務局)

排出物原単位とごみ処理原単位の2つの数値目標があり、排出物原単位には資源とごみが含まれる。資源物を除いたものがごみ処理原単位となっている。

(西村副会長)

ごみ処理量の減が二酸化炭素排出量の減となる換算はできるのか。

(事務局)

ごみ処理量原単位については焼却ということもあるので、二酸化炭素排出量は一定量あると考える。二酸化炭素排出量の計算をするには、燃料等の様々な要因から分析しなくてはならないので、ごみ量に対する数値として二酸化炭素排出量を出すことは難しい。

(西村副会長)

小平市の焼却場はずっと自然に燃えているのか。

(事務局)

小平村山大和衛生組合のことと考えるが、基本的には一度着火すると、後は余熱で燃焼しつづけると聞いている。

(西村副会長)

食品ロス等の問題で、焼却に使用する火を減らすことが二酸化炭素排出量の削減につながると思う。ごみを減らすことで二酸化炭素排出量の削減できる。

(事務局)

市では3Rの推進を目標に上げており、その中でもまずリデュース(ごみの減量)、リユース(再利用)、最後にリサイクルという3Rの推進が重要と考えている。この3Rの推進によってごみ量を減らし、焼却に回ってしまうごみ量を減らすことが、二酸化炭素排出量の削減につながると考える。また、最近では食品ロス対策として、手前どりポップの推進やジモティーと連携して、粗大ごみ等の減量を行っている。

小平・大和・村山衛生組合は焼却施設を更新中であり、令和7年に完成予定である。新しい焼却施設は発電機能も備えており、そういった観点からも環境に配慮している。

(西出委員)

コンビニの数を減らせばごみも減るのではないかと。企業誘致する際には環境には配慮した企業を誘致すべきであり、また、自宅で生ごみを減らすことができる、家庭用コンポストの導入をより推進すべきであると考えている。

(事務局)

家庭用コンポストについては、電気式のものを含め補助を行っている。また先日は段ボールコンポストの講習会を実施するなど、導入についての啓発を行っている。

(西出委員)

段ボールからつくるのではなく、市役所に行ったら貰えるといった手軽さが欲しい。

(事務局)

段ボールコンポストは2〜3か月でだめになってしまうため、配ることは難しいと考えている。

(富士田委員)

コンビニやスーパーと連携してコンポストの導入を進めていくことも必要だと思う。また、企業を減らすのではなく、新しい事業者等が入ってきた時に、その事業者と一緒に環境を良くしていくという取組が必要であると考えている。

(事務局)

実際に協定を結んでいる事例として、市内のセブンイレブンとペットボトルの回収について行っている。協定を結んではいないが、フードドライブについて市内のファミリーマートが回収を行っている事例がある。

(竹内委員)

こういった取組が市民の行動変容にどれだけつながっているのかという視点が必要と考える。現実的に行動できる人だけに波及してもあまり意味がなく、例えば行動の最低限度を示すことで参加できる裾野が広がるような周知も必要だと思う。

(事務局)

現在、次期一般廃棄物処理基本計画を策定しているので、頂いたご意見を次期計画に取り入れられるか検討してまいりたい。

(堀米委員)

3Rにリニューアルという視点を取り組む必要があると思う。実際にごみを出さないように設計段階から考え、生産者や消費者がそれぞれ行動変容を起こすような取組が必要だと思う。

### (3) 小平市第三次みどりの基本計画進捗状況報告（令和3年度実績）について

#### (4) (仮称) 小平市用水路管理方針の策定について（事務局）

資料3-①、3-②、3-③に沿って一括で説明。

(西村副会長)

本日の配布資料1-2のP47【用水路別延長の推移】において、用水路で長さの増減がある。この原因はなにか。

(事務局)

用水路としての機能を果たしていない、水が流れていない箇所については売り払いを行っており、売り払い箇所が毎年数百メートルあるため、用水路の延長の数値が変わっている。

(西村副会長)

売り払った箇所が埋められてしまうことで、その箇所が上流域だった場合、下流域に水が流れないなどの影響がでることはないか。

(事務局)

基本的には市内の東部地域（下流域）を売り払っている。用水路として機能を喪失し、将来にわたり回復する見込みがない箇所を売り払いの対象としている。

(西村副会長)

流水確保が完了したということは、鈴木用水や野中用水も下流まで水が流れるということではないのか。

(事務局)

流水の確保に取り組んできたが、全ての用水路に流せるような潤沢な量は確保できておらず、これ以上の確保が見込めない状況であることから、今後の水の流れていない用水路などの在り方を考えていくために小平市用水路管理方針を策定することとした。

(竹内委員)

小平市の用水路は人工的なものか、または自然の小河川を活用したものか。

(事務局)

小平市の用水路は全て人工的に掘られた用水路である。新田開発をするあたり掘られた経緯がある。

(竹内委員)

在来種などの植物や水辺環境についての調査など行ったことはあるか。

(事務局)

生きものの調査を平成30年・令和元年に行っているが、どんな昆虫がいるかなどの調査であり、詳しい調査ではない。

(竹内委員)

水田由来のものを含めた希少な植物相が豊かになるポテンシャルがある。生物多様性の計画なども絡めればかなり可能性があるため、ぜひ検討いただきたい。

(奥会長)

今後、小平市用水路管理方針管理方針の案ができた段階でみさせてもらえればと思う。

(西出委員)

みどりの基本計画進捗状況報告について、保存樹林が減っているが、今後、減っていく傾向なのか。

(事務局)

保存樹林について、土地の所有者などの相続等があった際に宅地化してしまう傾向がある。市としても所有者の方にご協力いただけるようお願いしているが減少傾向にある。

一方で、保存樹林の中でも重要なところについては、特別緑地保全地区という形で取得し、市有林として管理している樹林もある。

(西村副会長)

ナラ枯れの影響はでているか。

(事務局)

小平市の管理地では、令和2年度から被害が拡大しているのを確認しており、昨年度の被害も大きかった。今年度は過去2年に比べれば勢いが弱まっている印象があるが被害を受けている。

(竹内委員)

ナラ枯れについて、巨木化した樹林地が被害を受けやすいことが分かっている。10年程度の小径木の林では、周りがナラ枯れの被害を受けていても影響を受けていない例がある。そのため、萌芽更新をしていけば抜本的な対応になるかもしれないが、時間や経費がかかるためバランスが大事となる。

(奥会長)

樹林を減らさない取組はどの自治体でも行っているが、相続等により難しい状況にある。引き続き、なるべく減らさないよう取り組んでほしい。

## (5) 小平市第二次下水道プラン進捗状況報告（令和3年度実績）について

(事務局)

資料4-①、4-②に沿って説明。

(田中委員)

経営戦略における経営指標（グラフ）は、推計値よりも令和3年度実績の方が良い状態となっているのか。これは、経営状況が良いという認識でよいのか。

(事務局)

そのとおりである。経営指標の値は高い方がよいものと、低い方がよいものがあり、全ての指標が推計値より望ましい状況となっている。

## (6) 小平市域の脱炭素化に向けた調査（中間報告）について

(事務局) (事業者)

資料 4-①、4-②に沿って説明。

(田中委員) 環境基本計画の答申について (情報提供)

2022年8月8日の東京都環境審議会において、東京都環境基本計画のあり方について答申された。脱炭素化に関わる箇所では、2030年目標として、都内温室効果ガス排出量の2000年比50%削減、再生可能エネルギーによる電力利用割合50%程度等が掲げられており、施策の方向性として、再エネの基幹エネルギー化、ゼロエミッションビル・住宅の拡大、ZEV・充電インフラの整備や水素利用の促進等が示されている。

また審議会では、一定の新築住宅等への太陽光発電等の設置義務化など条例改正についても答申された。この答申を踏まえ、今後技術検討会の中で基本方針を定めていく予定である。

都内においては、住宅の太陽光発電のポテンシャルはまだあり、こちらを活用することで再エネの拡大につながると認識している。

(秦野委員) 「環境にやさしいバス」の取組について (情報提供)

西武バスでは、カーボンニュートラルの取組を進めており、ディーゼルに変わる燃料としてユーグレナバイオディーゼル、リニューアブルディーゼル、燃料電池バスを試験的に運行している。

ディーゼル車は幅広い運用ができることから、どこのバス会社でも主流となっており、西武バスでは全車両の4%程度であるが、5年前からディーゼル・電気ハイブリッド車両を導入している。燃費は既存のディーゼル車より15~30%燃費が良い。ディーゼルの燃費は1リットルあたり2.91kmであり改善の余地もある。

ユーグレナバイオ燃料は軽油と混ぜて使用しているが、単価が軽油費の12倍、燃費は1リットルあたり2.7kmとなっている。

リニューアブル燃料については単価が軽油費の5倍、軽油と混合できないため別の給油装置を作る必要があり、イニシャルコストが莫大にかかるほか、燃費は1リットルあたり2.38kmとなっている。

燃料電池バスについては車両単価が1億円を超える(軽油で走る通常のバス2700万円)。

EVバスについては充電が課題である。

今後、これらのバスの検証をさらに進め、具体的な選定を進めていくが、当面はディーゼル・電気ハイブリッド車両の導入を進めていく。



(奥会長)

調査については詳細を詰めることが残っているようだが、今後のスケジュールはどのようにまとめていくのか。

(事務局)

今回は中間報告であるが、改めて9月14日の環境審議会にて最終報告をさせていただく。この報告は小平市内の脱炭素のポテンシャルを分析していただく基礎調査であり、今年度後半の環境審議会では、調査報告書を踏まえ、「小平市地域エネルギービジョン」の見直しに向けご意見をいただき、今年度中にCO2削減目標と施策の見直しをしていく。

(鈴木委員)

2050年までの目標値をみると非常に厳しい数値であると実感している。太陽光発電の設置に関する補助金はあるが、仮にパワーコンディショナーが10年で故障した場合、それに対する補償はない。初期に太陽光発電を設置した方が継続して太陽光発電を使えるようパワーコンディショナーが故障した場合の補助制度等を考えていただきたい。また、出来れば地元の業者で工事をした場合のインセンティブの付与についても考えていただきたい。

(事務局)

初期に導入した太陽光発電設備が更新の時期を迎えるというご相談をいただいております、東京都にも要望が届いていると認識している。太陽光発電を設置した方が継続して使用していただける施策の必要性について認識しており、どう反映させていくかについては今後ご意見をいただきたい。

(安田委員)

小平市のポテンシャルが太陽光発電に偏っているのは現実的でないと思われる。他の選択肢も必要である。太陽光発電の普及が続いた後の10年後20年後には太陽光パネルの処分の問題等が発生する。ポテンシャルとして廃棄物は4%しかないが、例えば小平市の廃棄物の行政処分単価はキログラム20円と他の自治体と比べると安い。他の自治体並みに処分単価の引き上げを行う必要があり、市民と事業系の事業者がきちんと分別をしていただければ、ポテンシャルにある廃棄物4%についても伸びしろがあるのではないかと。

(事務局)

小平・大和・村山衛生組合への事業系廃棄物の持ち込みによる手数料については、キログラム24円から今後キログラム40円へ引き上げをさせていただく予定である。武蔵村山市、東大和市も同額となるよう調整している。

## (7) その他

(事務局)

今後の環境審議会日程を連絡。